

# 営農ウィークリー NEWS

## 第29回大山崎町農産物品評会開催！！

11月2日、大山崎町中央公民館にて「第29回大山崎町農産物品評会」が開催されました。平年より気温が高い日が続き、秋冬野菜の栽培が順調に進み、昨年を上回る76点の出品がありました。当日は、京都乙訓農業改良普及センターの普及員、大山崎町環境事業部長、JAの経済部職員が審査を担当しました。



\* 特別賞入賞者は下記の通りです。 **おめでとうございます！**

- 京都府知事賞（小かぶ）：小泉 ひとみさん
- 大山崎町長賞（大根）：島 義實さん
- 京都中央農業協同組合長賞（里いも）：平井 章司さん
- 乙訓都市農業振興協議会長賞（茄子）：小泉 正子さん
- 大山崎町農業委員会賞（ピーマン）：大北 栄次さん
- 京都府土地改良事業団体連合会乙訓支部長賞（さつまいも）：平井 敏彦さん



—TAC information—

### 2019年産米 検査成績速報！ TAC



2019年産米検査成績一覧表  
2019年11月1日現在  
(単位:30kg袋個・%)

等級	検査数量	等級比率
1	1,109	12.43
2	5,889	65.98
3	1,927	21.59
合計	8,925	

産米はJAへ出荷をよろしくお願ひいたします！  
追加出荷を随時受け付けております！



# 産米検査格付結果の理由による改善対策

## ◆除青未熟、乳心白粒、死米

出穂期以降の気象状況、土壌条件、施肥状況、水管理、病害など原因はさまざまである。対策としては、収穫後、土壌改良材の施用による土づくりで健全に稲が育つようにする。

石灰窒素を20kg/10アール当たり施用

堆肥（JA活緑など）を1.5トン施用

腐植酸入り土壌改良材（アズミン）を40kg/10アール当たり施用

土壌改良材（とれ太郎）を80～100kg/10アール当たり施用

基肥散布時に土壌改良材（けい酸加里）を40kg/10アール当たり施用

## ◆背・腹白粒

高温障害で登熟期の高温によるもの。

田植え時期を遅らすか、早生品種から晩生品種へ切り替える。

水管理が容易な場合は、夜間にかけて流しを行い、水温を下げる。

出穂20日～10日前に登熟歩合向上と高温登熟下における白未熟粒の発生を軽減する効果のある殺菌・植物調整剤（フジワン粒剤4kg/10アール当たり）を散布する。

※散布しやすい「フジワンパック」（75g小包装パックを15個/10アール当たり散布）もあります。

出穂35日前に土壌改良材（けい酸加里）を40kg/10アール当たり施用する。基肥散布時の方が、散布効果が高い。

◆胴割粒 早期落水のほか、乾燥調製時の高温急激乾燥によるもの。

## ◆ムシ米

収穫時に水分が多いモミをモミ袋等に入れたまま長時間放置すると発生する。玄米にシミのような着色がみられ、精米しても着色が残る。

## ◆着色粒（斑点米粒） カメムシ類による吸汁害

温暖化により近年、被害が拡大しており、農薬散布のほか、出穂20日前頃からほ場周りの除草により被害を軽減することができるが、出穂7日後頃の農薬散布（スタークル粒剤3kg/10アール当たり）が有効。

※散布しやすい「スタークル豆つぶ」（250g/10アール当たり散布）もあります。

近年、色彩選別機により物理的に混入を減らすことは可能であるが、収穫量の減少にもつながることから農薬防除を行うことが望ましい。

●上記に記載した農薬散布量は、2019年10月15日現在のもので、今後変更される場合もありますので、農薬を使用される際は、必ず農薬使用ラベルを再度確認してください。

また、上記の対策を実践されても検査格付けが必ず上昇するなど補償するものではありません。

詳しくは、営農販売課又は、経済エリア担当までお問い合わせください。